

広島大学平和センター CPHU NEWSLETTER 2023

〒730-0053 広島市中区東千田町 1-1-89
TEL: 082-542-6975 FAX: 082-245-0585
E-mail: heiwa@hiroshima-u.ac.jp
Website: <https://heiwa.hiroshima-u.ac.jp>
(2020年9月よりホームページURLを変更しました)



ご挨拶

「平和」とは何か、を模索し続ける教育研究機関の役割

広島大学平和センター長

川野 徳幸

(写真:中国新聞社提供)



2023年3月7日の越智光夫学長による次期センター長面談を経て、2023年4月1日より、平和センター長の重責を務めることとなりました。異例ではありますが、4期目となります。どうぞよろしくお願いたします。

今後も被ばく地「ヒロシマ」が標榜する「平和」を強く意識し、原爆・被ばく研究、核兵器をめぐる国際関係の研究、記憶学、平和構築研究、構造的暴力などを包む学際的な平和研究・平和教育に取り組みます。具体的には、①ヒロシマ平和研究領域、②グローバル平和研究領域、という二つの研究領域の重点化を図り、当センターの研究力の強化と特化を行います。そして、その成果を教育の場、そして社会に還元します。この目的のために、従来通り、国際シンポジウム、研究会、既存の紀要・研究報告シリーズの刊行、広島大学の看板科目群である「平和科目」への主体的な参画、大学院共通科目「持続可能な発展科目」における平和科目への主体的な参画、原爆・核問題をテーマにした市民向け公開講座（広島平和記念資料館と連携）、学内の「平和」をキーワードとする学内特定プログラム（Global Peace Leadership Program など）への積極的な参画、さらには8/6広島大学平和企画などに取り組んでまいります。

今後もこれら諸活動を継続いたしますが、特に、4期目は、次の2点に傾注したいと考えています。

①「国際社会の分断克服のためのプラットフォーム・ハブの構築」（国立大学経営改革促進事業の展開）

本学は、令和4年度国立大学改革・研究基盤強化推進補助金（国立大学経営改革促進事業）に採択されました。弊センターは本事業の中で「国際社会の分断克服のためのプラットフォーム・ハブの構築」を担当することになりました。令和

4年度は、連携機関との協議を重ね、「広島大学平和構築プロジェクト＝平和構築コロキウム」を立ち上げ、その目的、次年度の活動計画を作成しました。メンバー候補者への設立の趣旨説明を行い、参加を依頼し、大方のメンバーから同意を得ることができました。また、令和5年度開催の国際会議について担当者との協議し、開催に向けた諸準備（講演者の選定、交渉など）を行いました。

また、本事業の一環として、令和4年12月に文化人類学会と共催の公開シンポジウムを開催しました。原爆をグローバルな「原子力マシーン」のなかで捉え直し、そこから漏れ出す人間や動物や植物たちの「ちっちゃいこえ」を聴きとり、それを表現することの意味、重要性について議論しました。約120名の聴衆を得て、活発な議論ができました。さらに、令和5年2月には、約110名の参加を得て、市民公開講座「混沌とする世界とヒロシマの今」を開催しました。6名の登壇者による講演、さらにはパネルディスカッションを通し、ロシアのウクライナへの軍事侵攻後の「ヒロシマ」の役割について市民と活発な意見交換を行いました。

②旧理学部1号館跡地で展開する平和に関する「知の拠点」の具現化

2023年1月25日、広島市、広島大学、広島市立大学及び広島平和文化センターの4者は、平和に関する「知の拠点」の形成に向けた連携協力に関する協定を締結しました。次年度以降、教育における連携のため学内整備を行い、単位互換のための制度設計を行います。同時に、共同での国際シンポジウム、研究会、市民公開講座などを実施します。令和5年度に入り、早速、共同教育・共同研究・情報発信という3ワーキングを立ち上げ、具体的な協議を開始しています。特に、

広島市立大学広島平和研究所（大学院平和学研究科）とは教育・研究において共同事業を展開します。

今回のニューレターでは、今年度の「プラットフォーム・ハブ構築」と「知の拠点」の詳しい報告をさせていただきます。

ご承知のように、本年5月にはここ広島において「G7広島サミット」が開催され、あらためて、被爆地広島は世界の注目を集めました。そこでは、「広島ビジョン」も発表され、「核なき世界」を究極的な目標とすることも確認されました。同時に、核抑止に依存する安全保障政策の現実も明示されました。G7広島サミット、さらには広島ビジョンについては、評価が分かれるところですが、如実に日本政府の立場、さらには日本人のある意味での「理想」と「現実」を明確にしたことは間違いありません。多くの国民が「核なき世界」をあるべき、あるいはあってほしい将来の姿として捉える一方で、現実的には日米安全保障体制と核の傘の下にある「安全」を重視しているのです。後者に関しては、現在の緊迫した国際社会の状況を反映し、より比重が増しているのかもしれませんが。実際、防衛費増額に対しても全くと言っていいほど、国民からの反発はありませんでした。この意味において、戦後、日本人が保ってきたこの二つの異なる考え方へのバランス感覚が崩壊しつつあるのかもしれませんが。

青臭い言い方かもしれませんが。先の大戦において私たちは、どれほどの犠牲を払ってきたのでしょうか。300万以上の人々が尊い命を落とし、その中には、無辜の市民も多く含まれています。沖縄戦、東京はじめ多くの都市への無差別空襲、そして広島・長崎に投下された原爆と、戦争では多くの市民が犠牲となりました。この戦争から私たちは、何を学んだのでしょうか。今こそ、あらためて「平和」とは何かを考える時だと思えます。

2022年2月にはじまったロシアのウクライナへの軍事侵攻は、いまだ継続し、その終結の糸口さえ見つけられません。国際社会の分断は深まるばかりです。戦争の痛みを知るであろう日本は、歴史の教訓を今一度思い返し、終戦に向けたたゆまぬ努力をすべきです。さらに、「平和」を標榜する「ヒロシマ」は積極的にこの問題について、解決に向けた議論を展開すべきだし、具体案を提示すべきです。こうしている間にも多くの人たちが戦地で犠牲となっています。広島が「ヒロシマ」であり続けるためには必要なことであると確信しています。

「平和を希求する精神」を建学の理念とする本学は、G7広島サミット開催前に様々なイベントを実施しました。その

一つが、4月にICANと協働し、本学で開催した「G7広島ユースサミット」です。最終日には、「広島 G7 ユースサミットからのユース声明」を発表し、核軍縮に向けた11の具体的な提言を行いました。詳しくは、次のURLをご参照いただければと思いますが、次世代の「平和」の担い手を育成し、それらの若者と協働することはことさらに重要です。

https://www.icanw.org/youth_statement_from_the_hiroshima_g7_youth_summit

<https://www.hiroshima-u.ac.jp/news/76988>

その他、G7広島サミット前には、多くのイベントを企画し、かつ他の企画に参加しました。メディアでも積極的に発言してきました。それらについては、弊センターホームページに掲載してありますので、ご一読いただければ幸いです。

一つ朗報がございます。令和5年度より嘉陽礼文研究員が国際室から配置替えとなり、弊センターに着任しました。8月6日の平和企画だけではなく、平和センターの諸活動にコミットしてくれるものと期待しています。それでもなお、専任教員3名、特命教授1名、研究員1名、契約職員1名、教育研究補助職員1名、RA2名という小さな所帯であることにかわりありませんが、職員一同一丸となって、教育・研究・社会貢献に邁進いたします。また、友次晋介准教授には、副センター長に就任いただきました。ファンデルドゥース・ルリ先生ともども弊センターの屋台骨としてのご活躍を期待しています。私がいつまでもセンター長を担うわけにはいきません。できるだけ早いうちに、お二人を含め適切な方の新鮮な視点で、弊センターを牽引いただきたいと願っています。

関係各位におかれましては、ご指導ご鞭撻のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

(2023年8月10日 記す)

副センター長着任のご挨拶

2023年4月に平和センターの副センター長を拝命しました友次です。ロシアのウクライナへの軍事侵攻で核兵器使用の可能性が実際に示唆され、新START条約が履行停止されるなど、核兵器をめぐる国際環境は厳しさを増しています。平和センターでは様々な研究、教育活動を通じて、市民社会、学術、政策コミュニティーを結びつつ、少しでも核なき世界の実現に近づけるよう、力を尽くしてまいります。

どうぞよろしくお願い申し上げます。

2022 年度のセンターの活動

広島大学平和企画「映画と音楽による、平和を希求する思いの継承」

●第一部平和センター映画上映会・舞台挨拶

2022年8月6日 東千田未来創生センター401,402で開催（約100名参加）

映画『8時15分ヒロシマ 父から娘へ』

舞台挨拶：美甘章子（原作者・映画製作総指揮）

「広島大学から平和な未来への橋渡しー作品に込めた思い」



美甘章子氏の舞台挨拶の様子

市民公開講座

●広島大学平和センター主催広島平和記念資料館共催

令和4年度市民公開講座（国立大学経営改革促進事業）

「混沌とする世界とヒロシマの今」

2023年2月23日 広島平和記念資料館メモリアルホールで開催（約110名参加）

<講演者>

川野徳幸（広島大学平和センターセンター長・教授）

友次晋介（広島大学平和センター准教授）

片柳真理（広島大学大学院人間社会科学研究科教授）

ファンデルドゥース・ルリ（広島大学平和センター准教授）

細田益啓（広島平和記念資料館副館長（事）啓発課長）

滝川卓男（広島平和記念資料館館長）

<モデレーター>

ファンデルドゥース・ルリ（広島大学平和センター准教授）

<企画>

ファンデルドゥース・ルリ（広島大学平和センター准教授）



総合討論の様子

研究会

●第236回研究会（2022年6月30日）

広島大学東広島キャンパスで開催（40名参加）

黒木英充（東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所 / 北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター 教授（併任））

「シリア内戦とウクライナ戦争」



黒木教授講演の様子

センター共催・後援・協力等のシンポジウム、研究会等

●2022年9月17～30日広島市平和記念レストハウスで開催
—4000人以上訪問

日本学術振興会助成事業（JSPS21KK0032）、ヒロシマ・フィールドワーク実行委員会（協働代表：ファンデルドゥース・ルリ）、広島市平和記念公園レストハウス主催
原画展、及び関連イベント

「消えた町 記憶をたどり 森富茂雄 鉛筆画の世界」
（共催）

オープニングイベント：9月17日

サイドイベント：

9月19日→台風のため、26日と30日振り分けて変更

・川野徳幸 広島大学平和センター センター長・教授

「キノコ雲の下で何が起こったのか～原爆被害とは何か」

- ・レナータ・サレーツル ロンドン大学法学部教授及び
ブランコ・ソバン ジャーナリスト・ロンドン大学客員
研究員 「Ukraine, Apathy, and Towns Destroyed」

9月26日

- ・片柳真理 広島大学大学院人間社会科学研究科教授
「包囲された町の暮らし～サラエボ 1992-1995」
- ・大池真知子 広島大学大学院人間社会科学研究科教授/
ダイバーシティ研究センター センター長
「ボディマッピングによる被爆体験継承」

9月30日

- ・落葉裕信 広島平和記念資料館主任学芸員
「猿楽町・中島町に関する資料館の展示について」
- ・ファンデルドゥース・ルリ 広島大学平和センター准教授
「記憶の景観、多次元の戦争記憶」

●2022年10月29日放送大学広島平和学習センターで開催
放送大学広島学習センター主催公開シンポジウム

- 「今あらためて「平和」を考える」(共催)
- ・川野徳幸 広島大学平和センター センター長・教授
「ロシアのウクライナ侵攻後の「ヒロシマ」の課題と役割」
- ・片柳真理 広島大学大学院人間社会科学研究科 教授
「紛争から共生へー日本ができることは何か？」

●2022年12月4日JMSアステールプラザ中ホールで開催
日本文化人類学会主催公開シンポジウム (国立大学経営改
革促進事業)

- 「原子力マシーンとちっちゃいこえー文化人類学者と詩人
の対話」(共催)

出版物

●『広島平和科学』(第44号、2023年3月)

社会貢献など

- 新聞、TV等メディアでの発信 多数
- 政治社会学会理事、Editorial Board Member of
*RADIATION MEDICINE, ECOLOGY AND
REHABILITATOLOGY*、「エジプト日本科学技術大学

(E-JUST) プロジェクトフェーズ4」 国内支援委員会専
門部会国際ビジネス・人文学ワーキング・グループ委員、ひ
ろしま平和研究・教育機関ネットワーク委員(広島県)、平
和宣言に関する懇談会委員(広島市)、公益財団法人広島平
和文化センター理事、平和に係る教育・研究の導入機能等に
関する検討会(旧理学部1号館)委員(広島市)、NGO ヒ
ロシマ・セミパラチンスク・プロジェクト顧問、国立研究法
人日本原子力研究開発機構 核不拡散政策研究委員会委員、
国立研究法人日本原子力研究開発機構 将来の原子力技術
に係る社会環境整備検討委員会委員、広島市ピースツーリス
ム推進懇談会委員、広島平和文化センター広島平和記念資料
館運営会議委員、国際博物館会議日本委員会委員、公共に対
する犯罪犠牲者追悼のための記念博物館国際委員会委員、
Editorial Board Member, “Memory, Mind & Media”, Journal
Cambridge Core, Cambridge University Press、読売新聞被爆
77年被爆者意識調査(共同事業)など

日本学術振興会科学研究費助成事業

●研究代表者：川野徳幸

2019-2022年度科学研究費助成事業 基盤研究(B)

『世界の核被害の地域間比較研究：「いのち」、「こころ」、
「くらし」の視点から』

補助金額：1,260万円(2019-2022年度直接経費総額)

*その他、分担4件

●研究代表者：友次晋介

2019-2022年度科学研究費助成事業 基盤研究(C)

『科学技術外交としての日本の対アジア地域原子力協力』

補助金額：320万円(2019-2022年度直接経費総額)

*その他、分担3件

●研究代表者：ファンデルドゥース・ルリ

2021-2025年度科学研究費助成事業 国際共同研究加速基
金(国際共同研究強化(B))

“Establishing Memory Studies in Japan: A Cornerstone for
Peace”

補助金額：1,130万円(2021-2025年度直接経費総額)

2022-2024年度科学研究費助成事業 基盤研究(B)

『占領下の「被爆地復興言説」と女性』

補助金額：1,020万円(2022-2024年度直接経費総額)

*その他、分担1件